

Economic Indicators

発表日:2023年8月8日(火)

2023年4-6月期GDP予測(最終版)

～前期比年率+3.5%の高成長を予想も、内需の伸び悩みが懸念材料～

第一生命経済研究所

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴 (Tel:050-5474-7490)

8月15日に公表される2023年4-6月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.5%（前期比+0.9%）と予測する。7月31日の段階では前期比年率+3.9%（前期比+1.0%）と予想していたが、その後公表された経済指標の結果を反映し、予測値を下方修正する。

本日公表された23年6月分の国際収支統計の結果を反映し、23年4-6月期の実質輸出の予測値を前期比+3.2%（従来予測値：同+3.4%）へと小幅下方修正、実質輸入の予測値を前期比▲3.3%（従来予測値：同▲3.4%）へと小幅上方修正する。筆者の想定と比べて、輸出はサービスが下振れ、輸入はサービスが上振れたことが影響している。結果として、外需寄与度の予測値は若干の下方修正となる。

また、本日公表された6月分の家計調査と家計消費状況調査の結果を反映し、個人消費の予測値も前期比▲0.3%（従来予測値：前期比▲0.2%）へと小幅下方修正する。これらを踏まえ、23年4-6月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.5%と予測する。

23年4-6月期のGDPは、1-3月期の前期比年率+2.7%に続いて非常に高い成長率になることが予想されるが、内容については意外に冴えないものになる可能性が高い。今回の高成長をもたらすのはもっぱら外需であり、外需寄与度だけで前期比年率+5.2%Ptも成長率を押し上げるとみられる。一方、内需の柱である個人消費と設備投資はそろって小幅減になる可能性が高く、内需寄与度はマイナスに転じると予想している。4-6月期の消費はサービス消費を中心に回復が加速することが期待されていただけに失望感がある。こうした点を踏まえると、4-6月期の高成長については、ある程度割り引いて考える必要があると思われる。

2023年4-6月期GDP予測

(%)

実質GDP	0.9
(前期比年率)	3.5
内需寄与度	▲0.4
(うち民需)	▲0.5
(うち公需)	0.1
外需寄与度	1.3
民間最終消費支出	▲0.3
民間住宅	2.3
民間企業設備	▲0.4
民間在庫変動(寄与度)	▲0.3
政府最終消費支出	0.1
公的固定資本形成	0.9
財貨・サービスの輸出	3.2
財貨・サービスの輸入	▲3.3

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

(需要項目ごとの予測値の解説は、「2023年4-6月期GDP予測(1次速報)」(7月31日発行)をご参照ください)

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

